

谷はやし込み保存会 令和4年度の取り組み

① ほおば会

昨年同様、ほおば会はコロナ感染拡大により中止としましたが、保存会会員のみの山菜取り、加工等を行い、北谷コミュニティーセンターの協力をいただき販売し、多少の利益を得ることが出来ました。来年は是非とも行いたいと思います。

② 谷お面さんまつり

谷のお面さんまつりは令和5年2月11日に行う予定です。役員会打ち合わせにより詳細はこれからです。昨年同様を考えております

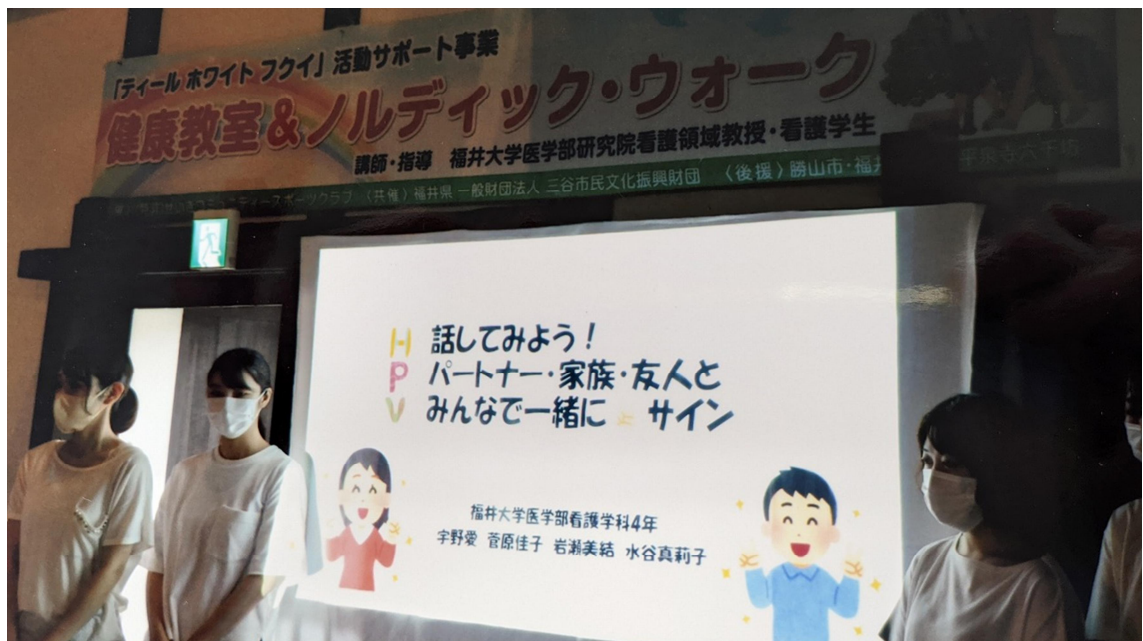
NPO 法人 せいきコミュニティースポーツクラブ

令和4年度の取り組み

① 健康増進事業 “ノルディック・ウォーク & ピンクリボン Day”

親子・中高年を対象に子宮がん・乳がん予防教室。

中高年を対象に、子宮・乳がん予防&コロナ太り・うつ・ボケ解消を福井大学医学部看護学生の協力を得て開催し、併せて運動療法として効果が期待できるノルディック・ウォーク教室も開催しました。



② “杉の子” プロジェクトと持続可能な街づくり・地域活性化へ

地域、学校と協働でスポーツと観光融合のまちづくり。

平泉寺の自然と人々のふれあいの中で、自分で考え、気づき、行動する力が
養われ、たくましく豊かに育っていく、子ども達の大切な学びのお手伝いを私た
ちにさせてください



NP0 法人まちづくりのむきの会 令和4年度の取り組み

① トウモロコシオーナー制

NP0 法人まちづくりのむきの会では、野向町の活性化を目的に、「日向の菜園事業」を展開しています。その事業の一つに「トウモロコシオーナー制」を今年度初めて取り入れました。「味来」という品種のトウモロコシを畑の一部に皆さんに栽培していただく取り組みです。初めての試みでしたが市内外から10組のご家族に参加していただきました。



② 蕎麦屋開店

NP0 法人まちづくりのむきの会が運営しています「のむき風の郷」で、今年5月14日より地元有志の手打ちによる蕎麦屋を開店しました。第2第4土曜日のみの開店ですが、回を重ねるごとに来店者が増え、途中からは「古本の交換市」や「手作りバック販売」などの活動も加わり、リピーターが増えてきました。小さな町の小さな活動ですが、人が集まる機会ができ、新たなコミュニティが生まれています。



いのせボーノくらぶ 令和4年度の取り組み

① すこやかフェスタ

勝山市体育館ジオアリーナでの開催でした。今回はボーノ特性の里芋ころ煮と地元野菜を販売しました。時間が限られた中での販売でしたが、多くの方がころ煮、新鮮な野菜を買い求められ、参加してよかったと思いました。



① いのせウォーク(平泉寺)

菩提林が隣接する猪野瀬地区。平泉寺のことをガイドさんに案内してもらったこととした。池・岩・建物等細かく教えてもらい、宗教都市と言われる理由を知った。火事にならなければ、大観光地となっていることに疑いはない。



まちづくり・むろこの会 令和4年度の取り組み

① 村岡山登山道等の草刈り

例年、夏にかけて登山道や山頂付近の郭（くるわ）、堀（ほり）等に雑草が生い茂り、景観を害し、登山者への危険が危惧されるため、安全かつ快適に登山ができるよう、村岡町連合壮年会と合同で草刈りを実施しました。



② 村岡山登山道の整備

冬季間の積雪による登山道の荒廃やベンチ等の破損に対する復旧作業を行いました。また寺尾側より階段設置を順次行ってきましたが、郡側へと進み完了まで残りわずかとなりました。登山者にやさしい村岡山を目指します。



むろこ女性の会 令和4年度の取り組み

① 親子で卵採取

今年度は、園児のほか保護者の方や市民の方にも参加してもらい、アキアカネの卵採取を行いました。初めての体験に大人の方は次々と出てくる卵にとってもびっくりしていました。



② 熱中症防止タオルの配布

8月の勝山の大雨による災害に、多くのボランティアの方が参加されました。私たちは、暑い中でのボランティア作業の熱中症予防になればと保冷剤入りのタオルを一人ひとりに渡しました。



① うど栽培

栽培を始めて15年になります。3週間で約1000本の収穫がありました。早朝6時頃より収穫、処理し、若猪野の市場、道の駅、中央市場へ搬出しました。株分け、籾殻入れ等課題を克服し、特産品へと定着させたいです。



本家勝山小笠原の会 令和4年度の取り組み

① 殿さま祭り

7月の終わり頃「殿さま祭り」があります。市民の皆様に殿さまを身近に感じていただきたいのと、勝山の殿さまらしさ、つまり小笠原風になじんでいただけたらという思いもあります。山門が小笠原様式を今に伝えています。

② 殿さま左義長祭り

「殿さま左義長祭り」を左義長の日に合わせて行います。殿さまは左義長を奨励しました。見上げるように太鼓を打つ動作は下町に住む町衆の殿さまへの熱い思いが込められていると語り伝えられています。